International Network of Museums for Peace

ジェネラル・コーディネータのデスクから

2019 年 11 月 10 日　No.21

Ikuro Anzai
General Coordinator

INMP's E-mail Address: inmpoffice@gmail.com
Website: https://sites.google.com/view/inmp-museums-for-peace
Facebook: https://www.facebook.com/museumsforpeace/

第 10 回国際平和博物館会議 登録・発表申し込み、宿泊予約

「平和のための博物館国際ネットワーク」(International Network of Museums for Peace, INMP) は「第 10 回国際平和博物館会議 (INMP 2020)」を 2020 年 9 月 16 日(水)～20 日(日)、京都と広島を舞台に開催します。メイン・テーマは「次世代への記憶の継承と平和博物館の役割」です。

●会議情報

第 10 回国際平和博物館会議は、INMP の主催で、広島市、立命館大学、京都造形芸術大学、京都精華大学、池坊短期大学が共催します。

組織員会の委員長は、立命館大学国際平和ミュージアム館長の吾郷眞一教授で、INMP ジェネラル・コーディネータの安斎育郎教授とともに、会議をより興味深い、有意義なものとするために旺盛な努力を図っています。組織委員会は、世界各地から多くの人々が国際会議に参加することを心から望んでいます。

●暫定スケジュール

2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが 7 月 24 日～9 月 6 日の予定で開催されます。そして、10 月になると京都や広島は観光客のハイシーズンを迎え、とても混雑します。したがって「第 10 回国際平和博物館会議」は 9 月中旬（9 月 16 日～20 日）に開催されますが、この時期は大学はなお夏季休暇中で、施設の利用にゆとりがあります。

暫定的な予定は以下の通りです。

◆9 月 16 日（立命館大学衣笠キャンパス）

開会行事、経過報告、基調報告、日本文化企画、若い世代による記憶の継承に関するシンポジウム、平和博物館長による記憶の継承に関するパネル討論会、歓迎パーティ

◆9 月 17 日（立命館大学衣笠キャンパス）

参加者からの報告、シンポジウム、パネル討論

会、ワークショップ、展示、ポスター・セッション、ミニエクスカーション

◆9 月 18 日（京都国際マンガミュージアム）

京都市内エクスカーション、「へーわボケ漫画展」の参観と意見交換

◆9 月 19 日（立命館大学衣笠キャンパス）

参加者からの報告、シンポジウム、パネル討論会、ワークショップ、展示、ポスター・セッション、日本文化に関する特別講演、INMP 総会、夕食会

◆9 月 20 日（広島平和記念資料館）

原爆ドーム見学、広島平和記念講演訪問、広島市歓迎行事（市長挨拶）、広島平和記念資料館の見学、原爆被爆者講演、参加者による討論、フェアウェル・パーティ

●会議の主テーマ

「第 10 回国際平和博物館会議」のメイン・テーマについては、2 年間の長きにわたって国際的な議論が続けられてきました。最終的に組織委員会は、次のように決めました。

次世代への記憶の継承における平和博物館の役割

プログラム委員会は、このメイン・テーマに、下記の副題を付することを期しています。

体験の国際的共有、信頼の構築、
地球社会の修復をめざして

●発表申し込み

〈発表の諸形式〉

① 報告セッションは 80 分間に 4 つの報告発表から成ります。発表は、(a)平和博物館や記念碑や平和記念公園の紹介などのケース・スタディや報告、(b)研究報告や平和教育プログラムを含むプロジェクト・企画・特別イベントの報告などです。発表者には 15 分の報告時間（厳守）と 5 分間の質疑討論時間が割り当てられます。

② ワークショップは（共感的リスニング、作詩、折り紙づくりなど）指導や実演を伴ったり、実地体験をしたりする企画で、1 つのワークショップにつき 40 分、80 分で 2 本の発表を原則とします。

③ パネル・セッションはいろいろな話題について 3 人あるいはそれ以上の発表者が討論する 40 分のセッションです。申し込むにはタイトル、各パネル・メンバーの紹介、テーマに関する説明が必要です。

④ ポスター・セッションは（口頭ではなく）展示資料（ポスター）を用いて発表する形式で、参加者と 1 対 1 で話すことも出来ます。とりあえず全体で 80 分の時間が割り当てられます。組織委員会は、イーゼル／三脚付きボード／マーカー・ペン／プッシュ・ピンを用意します。

申し込み方法

下をクリックして下さい

◆発表の申し込み

➡ Application for INMP 2020

◆参加登録と宿の申し込み

➡ JTB's AMARYS system

日本の参加者へ

発表の申し込みには、英語の報告要旨が不可欠です。英訳についてサポートが必要な場合は INMP にご連絡下さい。

➡ inmpoffice@gmail.com

訳文を返信しますので、それを用いて発表申し込みをして下さい。もし知人に英訳できる方がおられれば、その方にお願いして下さい。

平和のための博物館市民ネットワーク
第 18 回全国交流会、10月に開催される

10 月 26 日・27 日、埼玉県の国立女性教育会館で「平和のための博物市民ネットワーク」第 18 回全国交流会が開催されました。今回の担当館は、中帰連平和記念館でした。

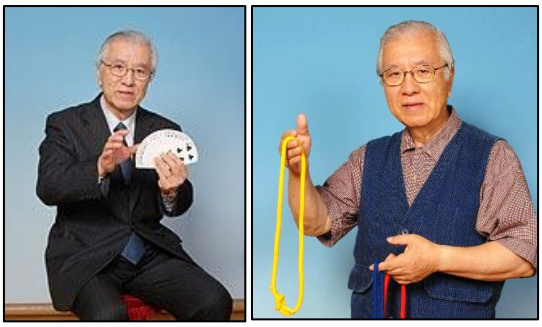
「市民ネット」は結成されて 21 年になりますが、もともと 1998 年に立命館大学で開かれた第 3 回国際平和博物館会議の時に結成されたものです。

ピースあいち館長の宮原大輔さんの事務局報告に続いて、中帰連平和記念館の松村高夫さんが歓迎の挨拶をされました。初日のプログラムでは 11 人の平和博物館関係者がそれぞれの館の活動報告やネットワークの発展にとって重要と思われる問題について提起しました。

国立女性教育センターにて

第 10 回国際平和博物館会議のプログラム委員長の藤岡敦先生は同国会議の重要性について、また INMP 会計理事の山根和代さんは世界の平和博物館運動を進めるために INMP の果たすべき役割を訴え、入会を呼びかけました。

安斎は福島東北部の浪江町で第 65 回目の調査としてエゴマ畑の放射能測定に取り組んでいましたが、急いで「市民ネットワーク」の懇親会に向かい、約 5 時間の旅路の末に国立女性教育会館の夕食懇親会に着きました。安斎は歓迎され、いくつかの手品を披露することを求められました。安斎は科学者であり、平和博物館の名誉館長であるとともに、手品師でもあります。



手品師・安斎

2 日目午前中のセッションは、第 10 回国際平和博物館会議の準備状況に関する安斎の報告から始まりました。安斎は「市民ネットワーク」がこの全国交流会の名において公式に国際会議の協賛者となるよう要請し、満場一致で認められました。

集会の最後に「あいちトリエンナーレ 2019」の「表現の不自由展」についての声明を採択しました。日本の平和博物館はこれまでも右翼的な人々からの攻撃や展示の在り方に対する公権力からの攻撃などを経験してきました。たとえば「ピースおおさか」は自治体の長によって加害に関する展示を撤去するよう強制されましたし、「女たちの戦争と平和資料館」（wam）はいわゆる「慰安婦問題」に関する展示に対して暴力的な妨害を受けてきました。（※「慰安婦」とは第二次世界大戦中に日本軍の性奴隷として動員された女性たちを意味します）

「慰安婦」に関する展示の前の池田恵理子名誉館長（女たちの戦争と平和資料館）

声明は次頁の通りです。

「表現の不自由展」に対する行政の介入と市民の脅迫的言辞に関する声明

第 18 回「平和のための博物館市民ネットワーク」全国交流会参加者一同

2019 年 8 月 3 日、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」の企画展「表現の不自由展・その後」は、テロ予告や脅迫ともとれる「電凸」(電話による抗議) と、展示の中止を求めた河村たかし名古屋市長の政治的介入の中で、主催責任者である大村秀章愛知県知事の「安全な運営が危ぶまれる」との判断により僅か 3 日間で中止されました。判断の背景には、2019 年 7 月 18 日の京都アニメーションに対する放火テロもあったと伝えられます。そして、9 月 26 日には、菅義偉官房長官が補助金の交付決定の見直しについて言及し、文化庁が補助金を交付しない方針を決めました。

日本国憲法第 21 条は、「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」と規定し、「検閲はこれをしてはならない」と定めています。私たちは、表現の自由は暴力性や脅迫性や差別性など他者の基本的人権を脅かすことのない範囲で、最大限に保障されるべきものであると確信します。大村知事は、「公権力の行使者が内容の良し悪しを判断するのは、憲法 21 条にいう検閲と取られてもしかたがない」と述べ、芸術監督の津田大介氏は、「検閲というよりは文化・芸術に対するテロ」と批判しました。こうした事態に対して、同展示会実行委員会や出品作家はもとより、日本美術会、日本ペンクラブ、「女性・戦争・人権」学会、日本ビジュアルジャーナリスト協会、日本漫画家協会、美術評論家連盟、国際美術館会議、日本劇作家協会、日本出版者協議会、日本 YWCA、日本消費者連盟、日本文化政策学会、立命館大学国際平和ミュージアム、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動に結集する各地の「慰安婦」支援活動団体など、多くの団体が相次いで展示会の中止に関する声明や見解を発表しました。

私たち日本の平和博物館関係者は、これまでにも、考えを異にする人々によって展示場を奇襲攻撃されたり、爆破予告の脅迫を受けたりする直接的な暴力にさらされたのをはじめ、公権力者の歴史観によって展示内容の抜本的変更を迫られるなど、様々な苦境に立たされた経験をもっています。しかし、私たちは、いかなる場合にも「表現の自由」を守るために可能なあらゆる努力を尽くしてきました。

今回の「あいちトリエンナーレ 2019」をめぐる顛末は、憲法的価値としての「表現の自由」を守るためには、公権力の介入を厳しく排するとともに、自由を享受する立場にある市民が自ら自由の圧殺に加担することのないよう、「節度ある主権者」として振舞うことが不可欠であることを教えています。

第 18 回「平和のための博物館市民ネットワーク」全国交流会に参加した私たちは、「表現の自由」に対する公権力の介入といかなる手段によるにせよ反人権的・暴力的な攻撃を批判し、補助金交付中止の決定に抗議するとともに、その速やかな撤回を要求します。

2019 年 10 月 27 日

※注：「表現の不自由展」は参観者をくじ引きで選んでグループごとに見学するという制約はありますが、10 月 8 日に再開されました。

無差別爆撃都市への平和ツアー事前学習会開かれる

東京のツアー会社「たびせんーつなぐ」と京都のかもがわ出版がINMP と共同して企画している無差別爆撃都市への平和ツアー事前学習会が、2019 年11 月4 日、東京大空襲戦災資料センターで開催されました。

東京大空襲戦災資料センター前の平和の少女像

2019 年 5 月、INMP はすでにたびせんーつなぐと共同して「韓国平和ツアー」を実施しましましたが、北海道から沖縄までの 35 人の日本の市民たちが参加しました。一行はソウルの植民地歴史博物館や、韓国民主化運動の原点となった「光州事件」に関する博物館や大学施設を訪れました。

今回はかもがわ出版が加わり、無差別爆撃を受けたゲルニカ（スペイン）、ドレスデン（ドイツ）、重慶（中国）、東京、広島・長崎に関する一連の本を出版する計画もあります。

事前学習会はすでに重慶ツアー(2020 年 2 月）に予約した人々を含めて、会場は満席になりました。

11 月 4 日の学習会

INMP のジェネラル・コーディネータとしての安斎の 15 分間の挨拶に続いて、都留文科大学の伊香俊哉教授が約 1 時間にわたり、無差別爆撃に関する国際人道法の歴史、および、一夜にして 10 万人以上の命を奪った東京大空襲の実態についての素晴らしい講演をされました。

たびせんーつなぐの大西健一さんは 2020 年 2 月の重慶ツアーがすでに満席になったことを紹介しましたが、このツアーには安斎も同行する予定です。

2020 年 4 月にはドレスデン-ゲルニカへの平和ツアーが INMP と協力して予定されています。これらのプロジェクトへの協力を通じて、INMP は一定の協力金を得る予定ですが、これは INMP の財政健全化にとって好ましいです。

10 月 25ー26 日、安斎科学平和事務所主宰の第 65 回福島調査が行われる

安斎科学・平和事務所（ASAP）は 2013 年 5 月に「福島プロジェクト」を立ち上げ、福島に住む人々からの要請に応じて放射能調査を行ってきました。

10 月 25～26 日、第 65 回目の調査が台風 21 号の余波の豪雨の影響のもとで行われました。

福島市から太平洋側のエゴマ畑に出るのは容易なことではなく、山越えの道は前日来の雨であちこちで通行止めになっていました。幸い「福島プロジェクト」は米谷聡さんという地元の地理に大変詳しいボランティア・ドライバーの協力を得ることができ、通行不能の道を巧みに避けながら、無事に目的地に到着できました。

陣頭指揮に立つ石井絹江さん

現地ではエゴマ農家の石井絹江さんがエゴマ収穫祭の陣頭指揮を執っていました。

収穫祭に先立って、福島プロジェクトはエゴマ畑の土壌サンプルの採取に行きましたが、畑が最近の大雨で冠水していることを発見しました。これはエゴマの収穫を困難にするものです。

土を採取する安斎　　*冠水したエゴマ畑*

収穫祭の会場に戻り、農民たちが用意したおいしい料理を楽しみましたが、庭では参加者たちがプロの音楽家の菅野潤さんの演奏を楽しんでいました。

菅野潤さんの演奏を楽しむ

収穫祭の司会者が「福島プロジェクト・チーム」を紹介したので、私が短いあいさつに続いいて、求めに応じていくつかのマジックを演じました。

マジックを演じる安斎

常磐線が雨の影響で不通だったため、帰路も困難に直面しました。幸い若い農民である和泉亘さんが 100 分ほどかけて仙台駅まで送ってくれたので、大変助かりました。

「福島プロジェクト・チーム」は 11 月 22～23 日に第 66 回調査を予定し、福島の土の重要な成分である「バーミキュライト」の特性についての学習会を予定しています。

臨済宗相国寺派管長の有馬頼底師と出版のための対談

安斎は 10 月 9 日と 11 月 5 日の二日、臨済宗相国寺派管長であり、金閣寺・銀閣寺の住職でもある有馬頼底師との対談を、相国寺承天閣美術館で楽しみました。

有馬さんと安斎はこれまでも憲法 9 条京都の会の共同代表世話人を務めるなどしてきましたが、対談するのは今回が初めてです。

相国寺法堂　　*有馬頼底師*

相国寺は 1381 年に建立された大変有名な禅寺です。上の写真の法堂（はっとう）の緩やかにカーブする天井には巨大な竜が描いてありますが、これは禅宗の教えを象徴するものです。竜の下のある場所に立って手を打つと、その音が天井と石畳の床に反響し、まるで竜の唸り声のように響きます。相国寺境内では、いろいろな庭を楽しむこともできます。

有馬さんと安斎は合計 3 時間ほどにわたっていろいろな話をしましたが、そこには生い立ち、や老いの話、科学と宗教、人間関係、戦争と平和の話を含む社会問題などさまざまな問題が含まれています。

承天閣美術館前の庭

対談はかもがわ出版によって来春には刊行されるでしょう。

エゴマかぼちゃランタンを開発中

安斎科学平和事務所が主宰する「福島プロジェクト・チーム」は、原発事故で被災した人々をサポートするいろいろな活動に取り組んでいます。

プロジェクトの主要な役割は放射線環境を見立てることですが、時には農家から提起される全く違う問題にも知恵を絞ります。

福島東北部に位置する浪江町は農業の再建に懸命に取り組んでいますが、エゴマの栽培に成功し、エゴマ・オイル、エゴマ・ドレッシング、エゴマラー油などを開発しています。

しかし、食用のエゴマ油を絞る過程で不可避的に発生する不純物交じりのエゴマの利用法については、知恵を必要としている段階です。

最近、「福島プロジェクト」のチーム・メートである桂川秀嗣・東邦大学名誉教授は、エゴマ油を光源に利用したハロウィーンかぼちゃランタンの試作に成功しました。

このランタンの構造は、日本の古い伝統的な燈明の技術に基づいていますが、これ以上詳しい説明は、今のところある種の「企業秘密」というところです。

エゴマ油を用いたハロウィーン・ランタン

浪江町で生産されるエゴマには放射能は含まれておらず、それを様々な目的に利用することは放射線防護学の観点からは問題ありません。

「福島プロジェクト・チーム」は、復興に懸命に努力している福島の人々をサポートし続けます。

ロータス・イーター

ハスの花は仏教では知恵と慈悲の象徴です。

私は高校時代にサマセット・モームの『ロータス・イーター』（ハス食う人）を読みましたが、この本の「ロータス」はギリシャ神話に源流がある架空の植物のようです。オデュッセウスが「ロータス」が咲き乱れる島に上陸しましたが、そこの住人であるロトパゴスという人々は毎日「ロータス」を食べては眠りこけています。『ロータス・イーター』はこの神話に基づくもののようで、「人間の意志というものは困難に直面することによって強められる。平たんな道を歩いているだけでは筋肉は役立たずになる」ということでしょう。

日本語版おまけ

立命館大学国際平和ミュージアムの吾郷眞一館長と安斎育郎名誉館長は、以下の声明を出しました。

あいちﾄﾘｴﾝﾅｰﾚ「表現の不自由・その後展」中止及び文化庁による補助金交付取り消しについての国際平和ﾐｭｰｼﾞｱﾑ館長・名誉館長声明

2019 年 8 月 3 日、「あいちトリエンナーレ 2019」における企画展「表現の不自由展・その後」展が、脅迫行為により開催中止となりました。このような脅迫行為が「表現の自由」「国民の知る権利」を脅かす由々しき行為であることは言うまでもありませんが、今回の「表現の不自由展・その後」展については、同展中止に先立つ 8 月 2 日には河村たかし名古屋市長が展示内容を批判し、菅義偉官房長官が補助金の交付決定の見直しに言及するなど、政治家による批判的言及が相次ぎました。そして 9 月 26 日には文化庁が「あいちトリエンナーレ」への補助金交付取り消しを決定しました。

これらの一連の動きは、個人の思想・信条の自由な表現である芸術表現に対し、公人としての政治家及び国家組織がそれを抑圧するものであり、日本国憲法第二十一条に記された「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」、同条２「検閲は、これをしてはならない」という条文に違反する惧れのあるものです。

これまでも自治体首長の歴史観・価値観によって平和博物館が展示の変更を迫られた事実をもふまえ、「戦争の被害と加害の両面に目を向け、過去と誠実に向き合う」ことを基本姿勢とする立命館大学国際平和ミュージアムとしては、このような一連の動きが個人の思想・信条の自由な表現としての芸術表現・展示表現を抑制する検閲の効果を及ぼす可能性を危惧し、文化庁の決定に対して遺憾の意を表明するとともに、「あいちトリエンナーレ」への補助金交付取り消しのすみやかな撤回を求めます。

立命館大学国際平和ミュージアム

館　長　　吾郷眞一

名誉館長　安斎育郎

2019 年 10 月 14 日

このニューズレターについて

このミニニューズレターは INMP のジェネラル・コーディネータである安斎育郎が、身の回りのあれこれをまとめて毎月発行しているものです。お楽しみください。感想は、jsanzai@yahoo.co.jp までどうぞ。